

梁せい450ミ以下の流通材で教会建設

8・19メートルの大スパンに対応

ポラテックと山清片山

ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）は、山清片山（静岡市、片山恵畏子社長）と静岡市内に教会を上棟し、現場見学会を開いた。延べ床面積288・99平方メートル、8190ミの大スパンの礼拝堂を設ける建物を一般流通材だけで実現した構造的に工夫した建物となっている。

同教会は清水聖書教会得意とし、50件以上の設計に携わってきた。「ポラテック木設計」の会員で、「ポラテック木設計」の会員設計に携わってきた。教会は交通量の多い、十字路の角地にあつて、四方から目立つ外観、十字架がよく見えるようにと、敷地に対して斜め45度の角度を付けて建物を配置する。これを梁せい450ミ以下、材長7000ミ以下の一般流通材

で実現できるように450×1500ミのRウッド集成材の大梁を2丁、斜め45度に架け、そこから300×120ミの小梁を架ける形で実現した。

礼拝堂は吹き抜けになっており、梁は視線に入らないようできるだけ高い位置に架け梁下端で2400ミと

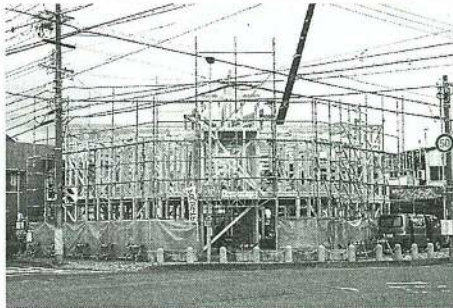
し、天井高は5400ミと開放的な空間にする。礼拝堂は約60人が入れるスペースとし、通常の日曜礼拝に使い、クリスマスなどの特別な機会には隣に設ける食堂、母子室礼拝

予備室（赤ちゃんを連れた母親が赤ちゃんと泣き止まないときに入るスペースでガラス張り）、2階の予備室などを含めると約100人が収容できる。軒高6050ミ、最高高8910ミ。

に抑えることで梁せいを抑えた。「ポラテックのオリジナル構造部材は使わず、一般流通材にこだわって設計した」と山清ポラテック非住宅営業課長。

食堂も6370ミの大スパンになるが、45ミの袖壁を設けて梁の材長を6000ミ以下

望などが強まるなか、工は2月21日。7月31日営業支援部で材工支援日も引き渡しを予定し、着工している。



構造的な工夫で一般流通材を活用

施工は山清片山が担当。同社はふじのくに静岡優良住宅の会の事務局を務め、会員工務店からの大工、職方の紹介や建て方工事の要